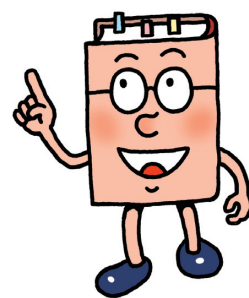


# 新しい漢字を学ぼう

## 1

●コンピュータで学ぶ漢字は、16ページから35ページで使われています。



1 — の漢字に気をつけて、次の文を読みましよう。

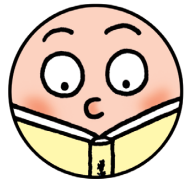
- ① 切り株につまづき、足の筋をいためる。
- ② 警備の仕組みを簡潔に説明する。
- ③ 弟の手つきはいかにも危なっかしい。
- ④ 会社勤めの骨休めに旅行をする。
- ⑤ 座ぶとんに開いた穴をつくらう。

2 次の文章を読みましよう。

道路にとつぜん穴が開いた。通勤や通学の人たちに危険がないよう、警官が注意をよびかけている。







表現のおもしろさを味わおう

# 雪わたり

雪わたり その一 (子ぎつねの紺三郎)  
こんぎつねのくろさん

雪がすっかりこおって大理石よりもかたくなり、空も冷たいなめらかな青い石の板でできているらしいのです。

「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。」

堀内 ほりうち 宮沢 みやざわ

誠一 せいいち 賢治 けんじ

絵 作

お日様が、真っ白に燃えてゆりのにおいをまき散らし、また雪をぎらぎら照らしました。

木なんかみんな、ザラメをかけたようにしもでびかびかしています。

「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。」

四郎しろうとかん子とは、小さな雪ぐつをは

## ★ザラメ

いてキックキックキック、野原に出ました。

## きびの畑

こんなおもしろい日が、またとあるで

しょうか。いつもは歩けないきびの畑の中でも、すすぎでいっぱいだった野原の上でも、好きな方へどこまででも行けるのです。



平らなことは、まるで一枚の板です。そしてそれが、たくさんさんの小さな小さな鏡のようにキラキラキラキラ光るので

す。

「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。」

二人は、森の近くまで来ました。大きなかしわの木は、枝もうづまるくらい立派なすき通ったつららを下げて、重そうに体を曲げておりました。

「かた雪かんこ、しみ雪しんこ。きつねの子あ、よめいほしい、ほしい。」

と、二人は森へ向いて高くさげびました。

しばらくしいんとしましたので、二人はも一度さげぼつ

として息をのみこんだとき、森の中から、

「しみ雪しんしん、かた雪かんかん。」

と言いながら、キシリキシリ雪をふんで、白いきつねの子が出てきました。

四郎しろうは、少しぎょつとつて、かん子を後ろにかばって、しっかり足をふんばってさげびました。

